

ベトナム研修団を迎えて 「石油販売&物流」研修を実施

ペトロリメックス (Petrolimex) より、グループ会社幹部クラスを対象とした石油販売と物流のカスタマイズド研修の要請があり、平成 24 年 12 月 3 日から 12 月 14 日まで日本で実施しました。

1. 実施に至る経緯

現在、ベトナムでは製油所が 1ヶ所あるだけで 2ヶ所目、3ヶ所目の建設計画がありますが、製油所から油槽所、サービスステーションまでのサプライチェーンに対する経験、知識が不足しております。

今回は、石油販売・物流が主な事業活動である Petrolimex が単独で同社グループ会社の経営幹部を対象に、日本におけるダウンストリーム部門のサプライチェーンを学ばせる目的で研修を実施しました。

2. 研修概要

研修テーマについては、昨年同様、Petrolimex の主要業務である石油販売・物流に決定しました。

研修プログラム及び日数については、JCCP での講義を 3 日、実地研修を 6 日とし前回同様、12 日間というコンパクトな構成としました。

また参加者については、同社本社及びベトナム各地域のグループ会社から 18 名が参加しました。その内、2 名の女性を含む 14 名が経営幹部クラスで、平均年齢も 46 歳と、幹部クラスが中心のメンバー構成となりました。

3. 研修内容

3.1 JCCP での研修

(1) 日本の石油産業&石油販売・物流

石油の安定供給のための備蓄の必要性、石油に代わる代替燃料の開発、規制緩和後の石油業界を取巻く環境の変化、販売分野における過当競争及び石油産業の脆弱性、石油税制の現状等、日本の石油産業全般を説明しました。

(2) アジアのオイルマーケットの現状及び今後の動向

中国、インドの経済成長により、急速に需要が伸びているアジア地域での最新オイルマーケット事情について、原油マーケットのメカニズム、原油価格の動向といったビジネスに直結した情報を、豊富なデータにもとづきエコノミストが講義しました。

(3) 世界のエネルギー事情

世界のエネルギー情勢について、国際的な視点からの環境問題をはじめ、金融財政問題などを織り交ぜたエネルギー

需給動向に関する豊富なデータに基づき講義がありました。

中でも、地球規模のエネルギー問題及び原子力に関する講義は、ベトナムでも大きな関心事になっており、経営幹部にとってはグローバルな視点から考える良い機会となりました。

3.2 実地研修先及び研修内容

(1) JX 日鉱日石石油基地・喜入基地

会議室での講義では、基地の役割、機能、運営管理をはじめ、環境安全対策の説明を受けました。

同基地の生命線でもあるコントロールハウスの視察では、最新のコンピュータやプロジェクターを駆使した原油受払・払出の集中管理態勢を見ることができました。

また、同社が世界で初めて実用化した TVR システム (タンカーからの排出ガス処理装置システム) の説明では、同設備が環境対策とエネルギーの有効利用に大きく寄与する技術でもあることを学びました。



原油備蓄タンクの前面にて (JX 日鉱日石石油基地・喜入基地)

(2) JX 日鉱日石エネルギー・福岡油槽所

会議室の講義では、油槽所の機能、特徴、施設等の概要説明がありました。

所内視察では、陸上出荷施設でのタンクローリー運転手による荷降ろし作業をはじめ、コントロール室での受発注システムのコンピュータ化を見ることができました。

また棧橋にある受入出荷施設では、内航船の着棧から荷揚げにいたるまでの安全作業を目の前で視察することができました。

(3) JX 日鉱日石エネルギー・麻里布製油所

午前の研修では、会社及び製油所の概要の説明及び製油所の視察をしました。講義では、スライドおよび DVD による

製油所の役割、特徴、位置付け等の概要説明がありました。また視察では、バスの中から海上及び陸上の出荷設備を見ることができました。

午後の研修では、製油所における石油製品の物流システムの講義及び視察をしました。中央制御室では、コンピュータによる徹底した配送管理による輸送合理化及び安全品質管理の実態を視察しました。



コントロール室・受発注システムの視察
(JX日鉱日石エネルギー・福岡油槽所)

(4) 中部国際空港給油施設

同社は中部国際空港より、同空港における航空燃料の受入、貯蔵、払出等の施設運営管理を受託しているもので、航空機へのジェット燃料の供給システムを研修することができました。

午前中は、空港及び給油施設の概要、受入・品質管理・施設管理といった業務内容の講義及び同施設の視察をしました。午後には、飛行場内エプロンにおいて、ハイドラントシステムを利用した航空機への燃料給油作業を目の前で視察することができ貴重な経験となりました。



飛行場内エプロンにて給油作業の視察（中部国際空港給油施設）

(5) コスモ石油・本社

物流システムの講義では、受発注センターでのコンピュータによる集中管理システムの仕組みをはじめ、タンクローリー出荷基地からSSまでの物流について、現場毎の写真を交えた講義がありました。

出荷基地におけるハイテクローリーシステムや、タンクローリー運転手とSSとの無線を通じたコントロールシステムは、物流部門の効率化・合理化に大いに貢献していることを学ぶことができました。

また輸送会社の安全管理体制の講義では、日本流PDCAの説明があり、経営者自らが直接関心を持ち、トップダウンにより社内で徹底させることの重要性を学びました。

(6) 昭和シェル石油・本社

会社概要及び石油業界での講義では、厳しい過当競争下にある石油業界の状況をはじめ、同社の経営方針・販売戦略の説明がありました。

同社販売部門の活動状況の講義では、元売りと特約店・販売店の関係をはじめ、SSサポート戦略（カード販促、人的支援）、差別化戦略、顧客満足度の向上等、同社の販売方針・戦略の説明がありました。

また同社の物流体制の講義では、高度にシステム化された物流の実態をはじめ、他社との業務提携（製油所、油槽所でのバーター取引）、輸送実態（海上、陸上）の説明がありました。

4. 研修総括

今年は例年より寒くなるのが早く、12月上旬とはいえ研修期間中も行く先々で気温が低く、暑い国からの研修生達の健康を心配しましたが、幸い全員無事に研修を修了することができました。

今回は、参加者の言葉の問題もあり、先方が手配した社員通訳を介しての研修となりましたが、幸い研修生と通訳同士の連携も良く、比較的スムーズに研修を行なうことができました。

研修生のアンケートでも非常に高い評価を得ることができ、石油販売や物流コースというテーマでの研修では、日本における製油所からサービスステーションまでの石油製品の流れを直接自分の目で見て研修することができるという点から、今後とも日本でのカスタマイズ研修（CPJ）を継続して実施して行きたいと考えております。

同社グループ会社の経営幹部の方々が、今回の研修を通じJCCP及び日本に対して良い印象を持たれたことは、大変嬉しく光栄であります。

また同社JCCP研修担当からも、今後の研修の継続について要請を頂きましたが、今後とも、JCCP研修が同国及び日本との良好な関係に陰ながら貢献することを願っております。

(研修部 小島和男)